

中央区環境情報誌

中央区ホームページ <http://www.city.chuo.lg.jp>

家庭の省エネを支援しています

もっと気軽に！
チャレンジ中央エコアクト

地球温暖化の原因とされる二酸化炭素は、石油や石炭、天然ガスなどの化石燃料を燃やすと発生します。私たちが日常生活で電気やガス、水道などを使用してこの二酸化炭素は発生します。

23区の二酸化炭素排出量

都内の二酸化炭素排出量は近年増加傾向にあり、私たちが居住する23区においても平成24(2012)年度では平成2(1990)年度と比較すると全体で22%増加しています。部門別では、業務部門が70%、ついで家庭部門が55%増加しています。また、全体の約3割は家庭から排出されています。

二酸化炭素排出量を削減するためには家庭の省エネ対策が重要です。

中央エコアクト リニューアル

家庭での省エネ活動や日常生活での環境配慮活動の第一歩として「中央エコアクト(中央区版二酸化炭素排出抑制システム)」を始めませんか。

中央エコアクトは、日常生活における節電などの環境配慮活動により、地球温暖化の原因である二酸化炭素の排出量を減らしていくシステムです。家庭で無理なく取り組むことができ、地球温暖化防止につながることもできます。



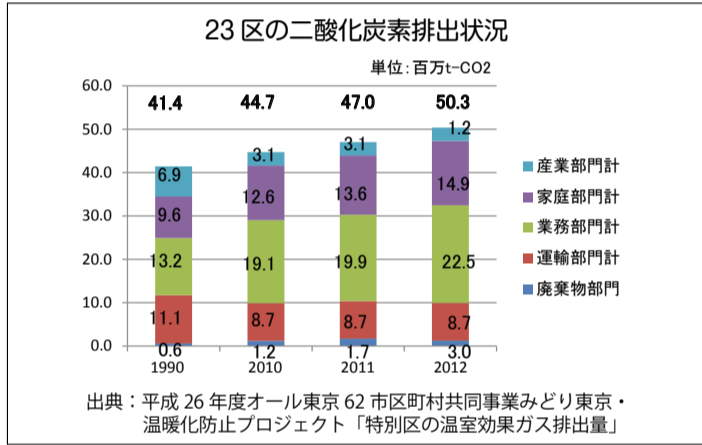
申込み



取組



認証



省エネナビ貸出中(無料)!

省エネナビは電気使用量や電気料金、二酸化炭素排出量をリアルタイムに表示する機器です。

電気の使い方を「見える化」して省エネ活動の効果を実感してみませんか。貸出は区民の方が対象です。本人確認書類(運転免許証、健康保険証、住基カードなど)をお持ちの上、区役所7階環境推進課窓口においでください。



省エネナビ

● 問合せ先
クール・ネット東京
スマートエネルギー
助成金担当ヘルプデスク
☎(5320) 7544

● 問合せ先
クール・ネット東京
普及連携チーム
☎(5388) 3422

○ 家庭用蓄電池等に対する補助金
家庭用蓄電池、燃料電池(エネファーム)等を都内に設置する方に対し、HEMS(家庭のエネルギー管理機器)の設置を条件に、その経費の一部を助成し、スマートなエネルギー利用を促進しています。

○ 家庭の省エネアドバイザー制度
東京都が認定した企業・団体のスタッフが「家庭の省エネアドバイザー」として、各家庭や町会に直接お伺いし、省エネ対策のアドバイスを行う制度です。

東京都の支援



クール・ネット東京 (ほうしちゃん)

その他の家庭の省エネ支援事業を利用してみませんか

都民の省エネに関する実態調査
東京都地球温暖化防止活動推進センター(クール・ネット東京)では、家庭の省エネにおける「思い違い」などに関する調査を行い、その結果をホームページで公表しています。
http://tokyo-co2down.jp/ecology/shoene_investigation/
《調査結果(抜粋)》
深夜に電気料金が安くなる契約をしていない人のうち、約5割の人が「深夜」であれば当然に料金が安くなると思いをしていた。そのようなプランで契約しているのか調べるのが大切です。

■中央区の環境に関する助成制度一覧 * 工事前に助成金の申請が必要です。助成には要件がありますのでお問い合わせください。

名称	対象機器等	対象者	問合せ先
自然エネルギー及び省エネルギー機器等導入費助成(住宅用)	太陽光発電システム、ソーラーシステム、高効率給湯器、高反射率塗料等	区民、分譲共同住宅管理組合、賃貸共同住宅所有者	環境推進課温暖化対策推進係 ☎(3546) 5628
自然エネルギー及び省エネルギー機器等導入費助成(事業所用)	太陽光発電システム、LEDランプ、エアコンディショナー等の省エネルギー機器	区内に事業所を有する中小企業者等	環境推進課温暖化対策推進係 ☎(3546) 5628
環境経営認証取得費助成	エコアクション21、エコステージ、ISO14001、グリーンプリンティング、グリーン経営認証	区内に事業所を有する中小企業者等	環境推進課温暖化対策推進係 ☎(3546) 5628
民間緑化助成	屋上・ベランダ緑化、壁面緑化、接道部緑化、接道部以外の地上部緑化	区民、区内事業者	水とみどりの課緑化推進係 ☎(3546) 5434

晴海第二公園

晴海で田植え

晴海に田んぼが出現しました。場所は晴海トリトンクスエアサウストリトンパークおよび晴海第三公園で、大きさは9m×5mほどです。木枠で組んだ田んぼの中に粘土と堆肥入りの土壌を二層に敷きならし、水を張りませす。水位を一定に調整するための装置も設置しました。

5月12日、いよいよ田植え当日。晴海連合町会および晴海トリトンスクエアの主催により、月島第三小学校の5年生児童79名が田植えを行いました。米の品種名はコシヒカリです。苗は3本ほどをひとまとめにし、指でやさしく持ち、深すぎず浅すぎず、隣の苗と列を揃えながら植えていきます。裸足で田んぼに入り、冷たい水と粘土質の土に足を取られながらも、一株一株丁寧に植えていきました。

平成23年から、ここではプランターを使用して田植えをしてきましたが、田んぼの中で足を踏み締めながらの田植えは初めてです。今後は、秋の稲刈りに向け、雑草取りやスズメ等鳥害を防ぐためのネット張りなど、稲の生長に合わせた手入れ作業を行いながら、豊作を祈りつつ大切に育てていきたいと思います。田植えを終えた児童からは「秋には自分たちで植えたお米で美味しいおにぎりが食べたいね」という感想も聞かれました。

田植えの様子



● 問合せ先
水とみどりの課 緑化推進係
☎(3546) 5434

環境情報センターの夏休みイベントスケジュール

日時	タイトル	内容	講師	対象	申込締切日
7月11日(土) 午後2時~4時	宇宙環境講座 ミッション3 ~気温差による影響を探れ!~	台風やエルニーニョ現象など海面水温の温度差により発生する気象現象が地球に与える影響を学びます。また、実験を通して空気循環を学び、生活の中で活用できることや省エネについても考えます。	JAXA職員	小学生 30名 《先着順》	7月10日(金)
7月22日(水) 午後2時~3時30分	めだかのすむ世界	減少している野生のめだか。その野生のめだかの生態やめだかを取り巻く様々な環境について、生きためだかを観察しながら学ぼう!	森の演出家 土屋 一昭	小学生 20名 《申込多数の場合は抽選》 (小学校3年生以下は保護者同伴)	7月17日(金)
7月27日(月) 8月2日(日) 午前9時~	もりもりフェスティバル2015	環境情報センターを開放し、中央区の森や森林保全に関する展示や、エコなワークショップを開催します。子どもから大人まで楽しめるイベントが「もり」たくさん!! なお、中央区の森の間伐材ワークショップは7/29および7/31の午後1時30分~4時に行います(キットがなくなり次第終了)。	-	どなたでも 《入場自由》	無し
7月30日(木) 午後2時~3時30分	どきどき電気のフシギ体験教室	電気の専門家から電気を安全に使用することを学びます。身近な電気製品で使われているモーターの仕組みが見えるクリップモーターの作成実験も行ないます。	東京電力社員/ 関東電気保安協会 職員	小学生 20名 《申込多数の場合は抽選》 (小学校3年生以下は保護者同伴)	7月24日(金)
8月1日(土) 午後2時~3時30分	ボトルアクアリウムをつくらう!	使用済みのボトルを使用してちいさなビオトープをつくり、めだかの生態や自然環境について学びます。つくったボトルアクアリウムは持ち帰って大事に育ててね!	一般財団法人 進化生物学研究所 蝦名 元	小学生と保護者 10組 《申込多数の場合は抽選》	7月24日(金)
8月7日(金) 午後1時30分~4時30分	宇宙環境講座 ミッション4 ~ペットボトルロケット 打ち上げカウントダウン~	ペットボトルロケットの作成・打ち上げを行い、なぜ、空気の力と水の勢いでロケットが飛ぶのかということ学びます。	JAXA職員	小学生 30名 《申込多数の場合は抽選》	7月31日(金)
8月18日(火) 午後2時~3時30分	プリヂェストーン環境ものづくり教室	プリヂェストーンのものづくりの仕組みや環境への取り組みなどを、工場経営を疑似体験できるボードゲームを通して楽しみながら学びます。	株式会社 プリヂェストーン社員	小学生 20名 《申込多数の場合は抽選》 (小学校3年生以下は保護者同伴)	8月11日(火)
8月27日(木) 午前10時30分~午後4時30分	エコ寺子屋	省エネやエネルギー、東京スクエアガーデンの環境に対する取り組みを学び、見学したことや感じたことで壁新聞を作成します。 ※別途、昼食代として参加費500円がかかります。	-	小学生 20名 《申込多数の場合は抽選》 (中央エコキッズ登録者)	8月21日(金)

※9月以降のイベントについては、区のおしらせまたは、環境情報センターのホームページをご確認ください。



環境活動発表会

平成27年2月11日(水曜日)、環境情報センターの環境活動登録団体の方々が集い、環境に関する各団体の取組について発表会を行いました。

当日は、17団体42名が参加し、全体会ではグリーンネットワーク東京中央が『温暖化防止と非営利活動』、里山竹林再生活用プロジェクトが『椚原村で知る、見る、体験ツアー』、地中熱利用促進協会が『地中熱利用促進協会の広報普及活動』の事例発表となりました。

全体会の後は、自然環境、都市環境・生活環境、エネルギー環境の3つの分科会に分かれて、日頃の活動状況報告や意見交換を行いました。

自然環境と生活環境・都市環境の分科会では、「都会の子どもたちへの環境教育の課題」について、エネルギー環境の分科会では、「どうしたら二酸化炭素排出量の削減ができるのか」などについて活発な意見交換が行われ、とても和やかな雰囲気の中、貴重な機会となりました。

環境情報センター環境活動登録団体 環境活動発表会

環境情報センター

環境活動登録団体の紹介

■非営利グリーンネットワーク東京中央 共同代表理事 森田千史 川淵恵子 名誉顧問 和邇雅紀

非営利グリーンネットワーク東京中央は、平成24年1月に登録されました。本部は、昭和40年創立の非営利グリーンネットワーク・ジャパン。「みんなでつくろう自然にふれながら夢の環を共有できるシンプルでスローな心豊かな暮らし」をスローガンに、本部と協働しながら自然との触れ合いを主体に活動しています。

活動の中心としているのは「いきものみつけ!」「里山竹林再生活用プロジェクト」「農山漁村都市国際交流」の3つ。

「いきものみつけ!」は都心の身近な公園を始め、奥多摩、群馬県、伊豆などで自然な環境の中で子供たちを対象にした観察会や自然体験。「里山竹林再生活用プロジェクト」は、荒廃が進む竹林の再生と活用を促すために、間伐を行ったり、竹炭作り、竹を使ったクラフトなどのワークショップなどを開いています。「農山漁村都市国際交流」は、奥多摩、群馬県倉渕や西アフリカのブルキナファソなどとの交流を目的としています。

「発想は村おこしなんです。自

然と共生し、遊びながら持続可能な自給自足をしたい。`気分は開拓団、で楽しくやっています」と、名誉顧問の和邇(わに)雅紀さん。

運営の中心メンバーは10数人。とくに決まった役割はなく、得意な分野、好きな分野で手を上げたメンバーが企画・立案などを行っているとのこと。大切にしているのは地域性。遊ぶだけではなく、それぞれの地域の特性に合わせてどんな発想やイベントができるか、そのためにはきちんとした体系作りが必要だと語ります。活動の原点は「好きなことからやる。だから長続きする」と和邇さん。豊かな人のネットワークを財産に、NPOの申請も準備しています。



■プラスチックみらい研究所 会長 西奈緒美 いい樹脂の日実行委員メンバー

始まりは、西奈緒美会長のフェイスブック、SNSからでした。プラスチックというカテゴリーに携わる人たちとコミュニケーションを深め、食事会などを開くうち、モノ作りに生かせる場がないだろうかと平成26年1月に11人の会員で設立されました。現在の会員は20人。プラスチックを通じて、原料、製造、技術、教育システム、環境、リサイクル、産廃などなど、プラスチック産業の上流から下流まで、幅広い関連業種の会員が集まっています。「専門分野の知識や造詣は深くても、それ以外は浅い。そういう方はこの業界にも多いんです。企業の垣根を越えて情報交換と交流の場を作り、モノづくりの発展を支援できればというのがきっかけです」と西会長。これまで横のつながりが薄かった人たちをつなげたいとの願いでした。さらに「この会は第4の集まりなんです」と続けます。第1は家族、第2は得意先、第3は上司。プラスチックみらい研究会を第4の場として、交流を楽しみたい人も、知識を深めたい人も楽しんでいただきたいと思います。

現在、2カ月に1回を基本に勉強会や見学会、セミナーを開催しています。国内だけでなく、韓国の企業でも見学会を実施しています。個人では訪れることのできない大企業の工場見学も、会員のサポートで可能になるのが研究会の強み。また、平成26年には11月14日を「いい樹脂の日」と定め、プラスチックの正しい知識を持ってもらおうと座談会を開催するなど、啓蒙・啓発活動にも力を入れています。

環境情報センターの登録は平成26年11月。プラスチック業界だけでなく、より幅広い業界、団体の人と交流しながら、プラスチックへの正しい理解と未来を発信し続けています。



中央区の森だより

中央区の森・檜原村を紹介する協働事業を実施しました

(中央区森の応援団)

中央区森の応援団は、区民に檜原村の人や自然と触れ合う機会を作ることや、森を整備する中で出てくる間伐材を区内で有効に活用することなどを目指し、活動している団体です。発足2年目である昨年度は、区との協働事業「檜原村で知る、見る、視察ツアー」を行いました。

この事業の目的は、「中央区の森を含めた檜原村の良さを知ってもらえるようなツアー」を区内の団体のツアー企画者を対象に実施することで、多くの団体に中央区の森を訪れてもらうことです。

ツアーの実施日は平成26年11月9日。区内の企業・町会・任意団体のツアー企画者30名が参加し、中央区の森や都民の森の散策、木工体験などを行いました。また、村の方との交流を図るため、観光協会のガイドさんや、中央区の森を管理している里山再生塾の方に、昼食も含め同行してもらいました。

参加者アンケートでは、全員が中央区の森の意義を理解するとともに、ツアー内容に満足していただいたことがわかり、「これまで中央区の森を知らなかったが、今後は団体としてツアーを行いたい」という回答も多くありました。また、散策や食事の際の檜原村のガイドさんの説明を評価する回答もありました。

さらに、ツアー参加団体以外にも紹介したいと考え、環境情報センターで報告会を実施



現地での打合せ

しました。会場では、ご自分の団体でも檜原村に行ってみたいので相談に乗ってほしいという声もありました。

本事業は今年度も継続し、昨年度調査した場所に加え、残りの観光資源も調査し、ツアー企画時に役立つ資料を作成する予定です。



都民の森を散策



中央区の森を散策



間伐の様子

事業者・団体のみなさん「中央区の森」で森林保全活動を行ってみませんか?

区では、区内事業者・団体の方を対象に、「中央区の森」を活用した森林保全活動事業に係る費用の一部を助成しています。これまでに、6事業者・団体の方々にご参加いただき、間伐作業や木材の運び出しなどに汗を流していただきました。みなさんも環境活動の一つとして、自然豊かな「中央区の森」で間伐などを行い、心地よい汗を流しながら健全な森づくりに貢献しませんか。興味のある方は左記、問合せ先にご相談ください。中央区のホームページをご覧ください。

●問合せ先
環境推進課 環境活動係
☎(3546) 5654

クリーンデー

クリーンデーが行われました

毎年、「ごみゼロの日(5月30日)」に近い日曜日に区内全域で実施しているクリーンデーが5月24日に行われました。クリーンデーは区民や事業者の皆さんのご協力で行う一斉清掃です。今年で25回目を迎え、269団体、18,000人を上回る多くの皆様にご参加いただきました。

今回は新富町会をお訪ねし、清掃活動の様子を拝見させていただきました。集合場所は新富町一丁目の町会事務所前です。10時の開始時刻には参加者50人ほどが集まり、川端武二会長の挨拶後、6班に分かれ、箒、火バサミ、ちり取り、収集袋を手に、それぞれの持ち場に向いました。



ある女性は「清掃をしている私達の姿を見て、ゴミのポイ捨てはいけない、気をつけようと思ってくれる方が一人でも増えればと思います。毎年参加しています。」と話されていました。



清掃を終えた皆さんからは「年々、ゴミは減っているが、植え込みや側溝にゴミがある」との声や、町全体の美化という点から、歩道の雑草を抜くことも大切という意見もありました。



●問合せ先
環境推進課 環境活動係
☎(3546) 5403

エコまつり

「第12回エコまつり」が開催されました!



フリーマーケットの様子

5月31日(日)、あかつき公園と中央区保健所で「知ろう!やろう!私たちにできるエコ」をテーマに「第12回エコまつり」が開催されました。

地球温暖化・自然保護・リサイクル・ごみの減量など、さまざまな環境問題について子どもから大人まで楽しみながら学ぶことができる環境イベントです。今回は雨の予報もありましたが、朝から青空が広がり、都心では5月としては過去140年でもっとも高い32.2度の気温を記録する暑い日となりました。

同時開催のフリーマーケットには63店舗が出店。開場の10時から早くもオープンし、次から次へと来場する人たちが大賑わい。気温の上昇以上に熱気があふれていました。園内の人気ナンバーワンは「リサイクル



清掃車を操作してみようコーナーの様子

ル自転車の販売」。昨年は20台でしたが今年は31台となり、人気の高さがうかがえます。ほとんど新品のように見える自転車もあり、当選した人たちは喜びの歓声をあげていました。「清掃車を操作してみよう」では、清掃車の仕組みや、自分でできるスリット操作に親子が興味を持ち、長い列ができていました。また、中央区バードウォッチングクラブによる、カメやスズムシなどの展示、紙で鳥をつくる体験のほか、中央区から出たゴミを堆肥につくった野菜の販売をしました。

保健所2階では、去年に続いて環境情報センターとその登録団体が、趣向を凝らしたワークショップやパネル展示を行いました。昨年からの参加の檜原村は特産品を販売し、ひのはら漬けや紅茶クッキーの試食も行いました。キャラクターの「ひのじやがくん」も登場して子どもたちの人気を集めていました。

5階では「エコアクトで地球温暖化防止にチャレンジ!」夏の節電「コーナー」などのコーナーが開設され、係員の説明に耳を傾けたり、操作盤に触れたりする家族連れの姿が目立ちました。「中央区の森の間伐材で貯金箱を作ろう!」のコーナーはいつも子どもたちでいっぱい。「アクリルたわしづくり」ではお母さんたちに交じって、アクリル糸と編み針に挑戦しているお父さんも見られました。

公園内、保健所内の指定されたコーナーでスタンプを集めると景品がもらえるスタンプラリーもすっかり人気のイベントとなりました。来場者の方々から、「毎年子ども達も楽しみにしている」、「エコマークのことよく知らなかったので役に立った」などの感想をいただき、子どもから大人まで環境への興味・関心を持つていただけたと思います。

●問合せ先
環境推進課 環境活動係
☎(3546) 9592

リサイクルハウスかざぐるま

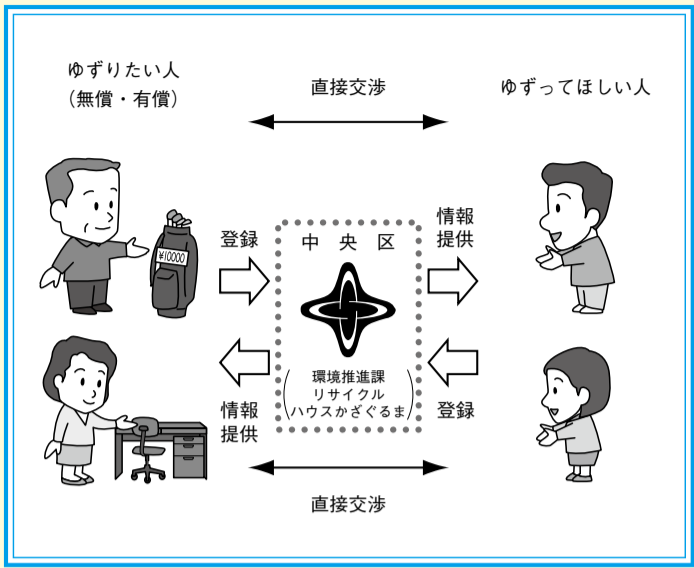
リサイクルハウスかざぐるまのご案内

リサイクルハウスかざぐるまは、明石町と箱崎町の2カ所において、ごみの減量と資源の再利用を目的とした活動を推進するため、不用品の展示による販売、不用品交換情報の掲示やリサイクル教室の開催などを行っています。どうぞ、お気軽にお立ち寄りください。

○不用品販売
ご家庭で不用になった衣類・雑貨等をお預かりして展示しています。欲しい方がお買い上げいただくことで、資源の再利用(リユース)を促進しています。

○不用品交換システム
大型家具や、家電品、高額品など、不用品販売で展示できない品物を譲りたい方や、不用品を譲ってほしい方のために、不用品交換情報を施設内に掲示し、やり取りをしていただく機会を提供しています。

《不用品交換システムの流れ》



(1)専用はがき※に必要事項を記入して、郵送または、リサイクルハウスかざぐるま(明石町・箱崎町)、区役所7階環境推進課まで持参してください。
 (2)リサイクルハウスかざぐるまの掲示板と区のホームページに約8週間掲載します。
 (3)ゆずってほしい(ゆずりたい)品物がありましたら、当事者間で直接交渉を行ってください。
 ※詳しくは区のホームページをご覧ください。
 ※専用はがきの配布場所
 リサイクルハウスかざぐるま(明石町・箱崎町)、区役所7階環境推進課、日本橋特別出張所、月島特別出張所
 なお、区のホームページからもダウンロードできます。

小型家電の回収場所・品目の拡大

小型家電の回収場所と回収品目を増やしました

小型家電の回収については、小学校等の拠点回収で行っていますが、4月1日より、新たにリサイクルハウスかざぐるま明石町と箱崎町に回収箱を常設するとともに、回収品目を増やしました。

○回収場所および回収時間
 ・リサイクルハウスかざぐるま明石町および箱崎町 2階
 午前9時～午後5時(毎週月曜日、祝日、年末年始、その他館内整理日を除く)
 ・小学校等の拠点回収
 別表のとおり

- 回収する小型家電
 回収箱の投入口(縦10センチメートル×横25センチメートル)に入る大きさの小型家電
 (例) 携帯電話、携帯音楽プレーヤー、携帯ゲーム機、デジタルカメラ、ポータブルビデオカメラ、ポータブルカーナビ、電子辞書、卓上計算機、ACアダプター、タブレット端末、ICレコーダー、USBメモリー、メモリーカード、電話機、ラジオ、ドライヤー、電気かみそり、リモコンなど)
- 持込上の注意
 ・回収箱の投入口を超える品物は回収できません。
 ・回収箱に入れた品物はお返しできません。

■拠点回収の回収場所および回収日時

京橋地域	日本橋地域	月島地域
毎週土曜日 午前9時30分～11時30分	毎週土曜日 午前9時～11時	毎週土曜日 午前10時～正午
城東小学校	常盤小学校	佃島小学校
泰明小学校	日本橋小学校	月島第一小学校
中央小学校	有馬小学校	月島第二小学校
明石小学校	久松小学校	月島第三小学校
京橋築地小学校	阪本小学校	豊海小学校
明正小学校	日本橋中学校	
銀座中学校		

○上記の拠点では小型家電のほか、牛乳パック・食品用トレイ・布類・廃食用油・蛍光管・乾電池・園芸用土の回収も行っています。



久松小学校のビオトープを訪問しました

久松小学校 児童たちに大人気の小さな「自然」

区では、区内の幼稚園、小学校、中学校にビオトープ(ビオ・BIO)生き物、トープ・TOP場所の合成語で「生き物の暮らす場所」の意)の整備を進めています。久松小学校では平成24年、屋上にビオトープを整備しました。同校では、児童たちが自然と接する機会を多く持てるようにと、廊下に100鉢の観葉植物を置き、プランターで草花を育て、ミニ水田での米作り、校庭にも多くの植栽を配っています。ビオトープもその一環として整備され、季節によって移り変わる姿をホームページ内の「久松の自然だより」でも紹介しています。

「子どもたちにとって、居心地のよい場所ができたのではないかと思っています」。こう語るのは、酒井寛昭校長。ビオトープは30㎡ほどの小さなものですが、児童たちに大人気で、訪問した日の休み時間には40人以上の児童たちが集まり、池の中を覗いたり、植物の間の虫や花を探したりと、それぞれに楽しみを見つけていました。

池に放流されたメダカは児童たちの人気者。鳥も多く飛来します。トンボも多く、ナツアカネ、アキアカネ、ギンヤンマ、シオカラトンボと種類も実に豊富。中には池に産卵するトンボもいて、それがヤゴになり、トンボになるまで観察できるそうです。

「そうした生き物や植物の変化を季節ごとに感じられるところがビオトープの素晴らしいところです。生活科、理科の授業、食物連鎖の学習などにも活用しています」と酒井校長。

専門の業者に年2回のメンテナンスを依頼していますが、日常の手入れは5年生以上の児童で構成される環境委員会が行っています。池に溜まった藻を取り除いたり、ゴミを掃除したりと自主的に活動しています。

酒井校長は「ビオトープがこまめで子どもたちの好きな場所になるとは思ってもみなかった」と喜んでいました。

